

水稻の生育状況と今後の管理対策（第1号）

平成30年5月31日
新潟県農林水産部

〔要約〕

コシヒカリ

- ◎ コシヒカリの茎数は指標値（生育のめやす）に比べて、「やや少」の状況です。
⇒ 1か月予報によれば気温が高く推移する可能性があります。中干（なかぼ）し*は、生育状況を見て遅れないよう開始しましょう。

こしいぶき・つきあかり・ゆきん子舞

- ◎ 5月上中旬植えで低温に遭遇した場合、茎数が少ないほ場が見られます。
⇒ 中干し開始までは、浅水管理により分けつの発生を促進しましょう。

*中干し：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと。

〔5月30日現在の生育〕

- コシヒカリは、指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや少」、葉数の進みは「並」の状況です。
- 5月上中旬植えで低温に遭遇したこしいぶき、つきあかり、ゆきん子舞は、活着が遅れ、茎数が少ないほ場が見られます。

〔今後の生育見込み〕

- 5月24日発表の1か月予報（5月26日から6月25日まで）によると、平均気温は平年並か平年より高い見込みで、降水量も平年並か平年より多い見込みです。
- そのため、コシヒカリは茎数が急増する可能性があります。

〔当面の管理対策〕

- 中干しまでの水管理
2～3cmの浅水管理により分けつの発生を促進しましょう。
田のワキの発生が多いほ場では夜間落水を行い、根腐れや生育停滞を防止しましょう。
- 中干し・^{みぞき}溝切り
コシヒカリの中干しの適期は、茎数が目標穂数の7～8割を確保した時期（田植後30日がめやす）です。生育が過剰になりやすいほ場では、より早めの6～7割の時期（田植後25日がめやす）となります。遅れずに中干しを開始し、溝切りを行いましょう。

◎ 今後の管理対策発行予定日

6月12日・21日・29日、7月11日・20日・26日・31日、8月21日、9月12日

〔補足資料〕

1 農業普及指導センター及び作物研究センターにおける生育状況

- コシヒカリは、指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや少」、葉数の進みは「並」の状況です（表1）。
- 5月上中旬植えて低温に遭遇したこしいぶき、つきあかり、ゆきん子舞は、活着が遅れ、茎数が少ないほ場が見られます（表2、表3、表4）。

(1) コシヒカリ

表1 県内全域のコシヒカリ生育調査ほ調査結果（5月30日現在）

項目	本年値 平均値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	24 cm	23 cm	並	104%
茎数	84 本/m ²	91 本/m ²	やや少	93%
葉数	4.9 葉	4.9 葉	並	0.1 葉

注) 県内全域の生育調査ほデータの平均値

(2) こしいぶき、つきあかり、ゆきん子舞

～長岡市に設置した調査ほでは、田植え直後に低温に遭遇したため活着が遅れ、茎数は指標値に比べ少ない～

表2 こしいぶきの生育(調査日：5月30日)

項目	本年値	指標値	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	22cm	22 cm	並	102%
茎数	93 本/m ²	107 本/m ²	少	86%
葉数	5.2 葉	5.3 葉	並	-0.1 葉

注1) 化成肥料栽培。田植え5月11日、栽植密度は19.6株/m²

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

表3 つきあかりの生育(調査日:5月30日)

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	28cm	26 cm	やや長	108%
茎数	93 本/m ²	110 本/m ²	少	85%
葉数	5.5 葉	5.5 葉	並	0.0 葉

注1) 化成肥料栽培。田植え5月8日、栽植密度は21.2株/m²

注2) 基肥窒素成分量 7.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ

表4 ゆきん子舞の生育調査ほ調査結果(5月30日現在)

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	28 cm	26 cm	やや長	108%
茎数	132 本/m ²	180 本/m ²	少	73%
葉数	6.0 葉	6.0 葉	並	0.0 葉

注1) 化成肥料栽培。田植え5月1日、栽植密度は18.6株/m²

注2) 基肥窒素成分量 1.68kg/10a(前作枝豆)

注3) 長岡市高野町の生育調査ほデータ

2 ちりよぐ 地力窒素の発現状況

- 移植日からの日平均地温は平年より約 0.3℃高く、期間窒素発現は化学肥料区、堆肥区ともに平年より多くなっています（表 5、図 1、図 2）。

表 5 地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査） (mgN/100g)

調査日		5月10日 ①	5月29日 ②	地力窒素発現量 ^{※1} (③=②-①)
化学肥料区	本年	3.2	4.5	1.4
	前年	3.1	3.9	0.7
	平年	2.3	2.8	0.5
堆肥施用区	本年	3.2	4.6	1.4
	前年	3.5	4.9	1.4
	平年	2.7	3.4	0.8

※1 小数点3ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

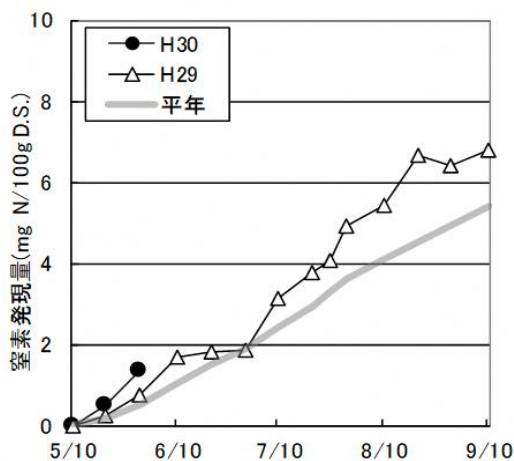


図1 地力窒素の発現推移
(化肥区；初期値を0とした)

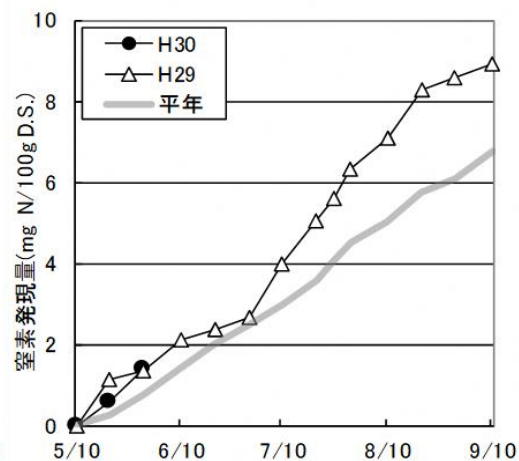


図2 地力窒素の発現推移
(堆肥区；初期値を0とした)

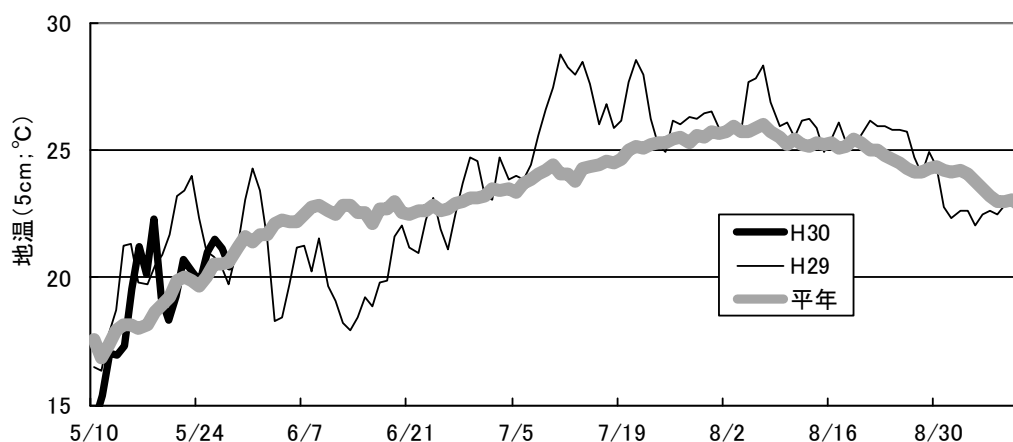


図3 地温（5cm）の推移